



工業品

カネパッケージ株式会社



- 1 メキシコ社屋外観
- 2 魅せるパッケージ技術で2018年日本パッケージコンテスト「ロジスティクス大賞」を受賞
- 3 さまざまな受賞や感謝状が同社の社会貢献への姿勢を物語る

製品が流通する環境での衝撃や震動を緩和して、製品を保持する「緩衝材」を開発。独自のネットワークにより、梱包から配送までをフォローしており、東南アジアを中心に海外拠点も構えている

展開国・地域	1996年 フィリピン	2006年 タイ
	2002年 中国	2011年 インドネシア
	2004年 ベトナム	2017年 メキシコ

企業情報 所在地: 埼玉県入間市 従業員数: 1,067名(グループ全体)
 設立: 1976年9月 URL: <https://www.kanepa.co.jp>

事業内容 各種緩衝材・設計・試験・製造・販売、各種段ボール・OA機器等のソフトバックなどの販売、海外キット製品管理・梱包・トータル物流



コンソ登録から約9ヵ月で現地法人を立ち上げ

ジェットロとの付き合いは、2000年ごろに中国進出する際の現地調査でサポートを受けて以来です。今回のメキシコ進出では十数年ぶりにお世話になりました。メキシコには2019年と2021年の自動車の大規模なモデルチェンジのタイミングを意識し、自動車部品業界への展開を見込んで進出を決めました。1996年に進出したフィリピンをはじめ、海外にいくつも拠点を持つ弊社が、改めてジェットロの力を借りた理由は、進出先のメキシコに伝手やルートがなく、初の海外進出と同じ状況になっていたからです。2016年4月に「新輸出大国コンソーシアム」へ登録し、経験豊富な専門家から、現地の地理感や商習慣、気質、業界が抱える課題などを、細かく教えてもらいました。そのお陰でスムーズに進められ、2017年1月には現地法人の登記ができました。立ち上がって3年で単年黒字を予定しており、フィリピン以来の早いスピードで成長をしています。

メキシコを足掛かりに、米国や欧州へ展開したい

メキシコの自動車部品の工業地帯には日系企業のパッケージメーカーはどこも進出しておらず、また、どの部品メーカーも梱包材には注力していない状況でした。でも、梱包の問題は発生していて、弊社のノウハウで問題の原因を説明したり、解決方法を提案し非常に喜んでもらえました。また、現地でいただく商談は金額の桁が違うものが多く、ビジネスチャンスがたくさん転がっていると感じています。ジェットロの専門家には、メキシコのことだけでなく、米国との流通などについても教えてもらいました。メキシコを生産拠点として、そこから米国や欧州、東南アジアへ輸出するケースもあり、メキシコは弊社がまだ拠点をもっていない米国や欧州に乗り込んでいく足掛かりになると考えています。これまでの海外進出は、その国のことだけを見ていましたが、専門家に教わることで世界規模に視野を広げてもらいました。

海外進出を高い壁と思わず、まずはやってみること

法人を設立した2017年にメキシコで大地震が起こった際には、トラックに救援物資を積んで被災地へ向かいました。日本でも介護施設を訪問しハンドベルの演奏会をするなど地域貢献を意識していますが、特に海外ではその国で働かせていただいている恩返しをしなければいけないと思っています。大地震の際従業員は勤め始めたばかりでしたが、この経験を通して愛社精神を強くしたようです。もし、海外進出を考えているなら、まずは早く取り組んだ方がよいと思います。中国をはじめ他国から日本市場への参入も多い今、世界経済を語らずに日本で商売するのは難しくなっています。日本と海外の壁を埼玉県と東京都の壁くらいに意識を変えてみてはどうでしょうか。ただ、進出する際に、自分たちの目的やターゲットを明確にしておくことが大切です。最終的な絵姿をイメージして進めれば、それはきっと実現すると思います。



代表取締役社長
金坂 良一 氏

地球の裏側への進出も
ジェットロのサポートで
非常にスムーズでした



専門家からのポイント

カネパッケージは2017年度にメキシコへ進出され、事業を開始されましたが、金坂社長、担当役員といった経営層の方々の進出、会社設立に関するご決断の早さ、現地で実務対応されたご担当者皆様方の行動力が、同社としては初めてとなる北米進出事業を成功させたと考えます。専門家として同社のご要望に応えるべく、同メキシコ社の社内体制の改善・強化や現地市場における顧客調査、企業同行訪問等を積極的に活動させていただいた結果、操業約1年半という短期間の中で、新規顧客の開拓、取引の拡大という事業の基礎を築くことができました。